

を過ぎると滝が連続するようになる。ちよつとした難所である。腰まで水につかたり、川幅ぐらゐの巨岩があったり、岩と岩の間を通りぬけたりである。一四時五分小滝につく。七〇位の高さで細い滝だが水しぶきを上げてすごい勢いである。時間があれば源流までつめて峠へ下りる予定であったが、一四時を過ぎてしまったので、駕籠山稻荷神社を経て浄土平へでる。(記・加)

(タイム)

出合五・一〇―砂防ダム六・四五―大滝一〇・四五
一・一三・三五―小滝一四・〇五―駕籠山稻荷神社一四・
五〇―浄土平一六・一〇

大倉本沢

一九七八年九月三日

◆天気(曇)

谷地平小屋で姥沢の二パーティと別れ大倉本沢へ。九時二分出合発。かなり水が冷たい。「せせらぎ」という感じの沢を一五分程進むと八位と二位の二段の滝に出る。この二段の滝の他には滝がまったくなく、単調な沢

である。

右側から簡単に越すと、あとは小さなナメがあるだけ。枝沢を頼りに現在地の確認をする。一一時、登山道を沢が横切る所で昼食にし、尾根に出て入道沢の下降に移る。

(記・加)

(タイム)

出合九・二五―沢終了一一・〇〇

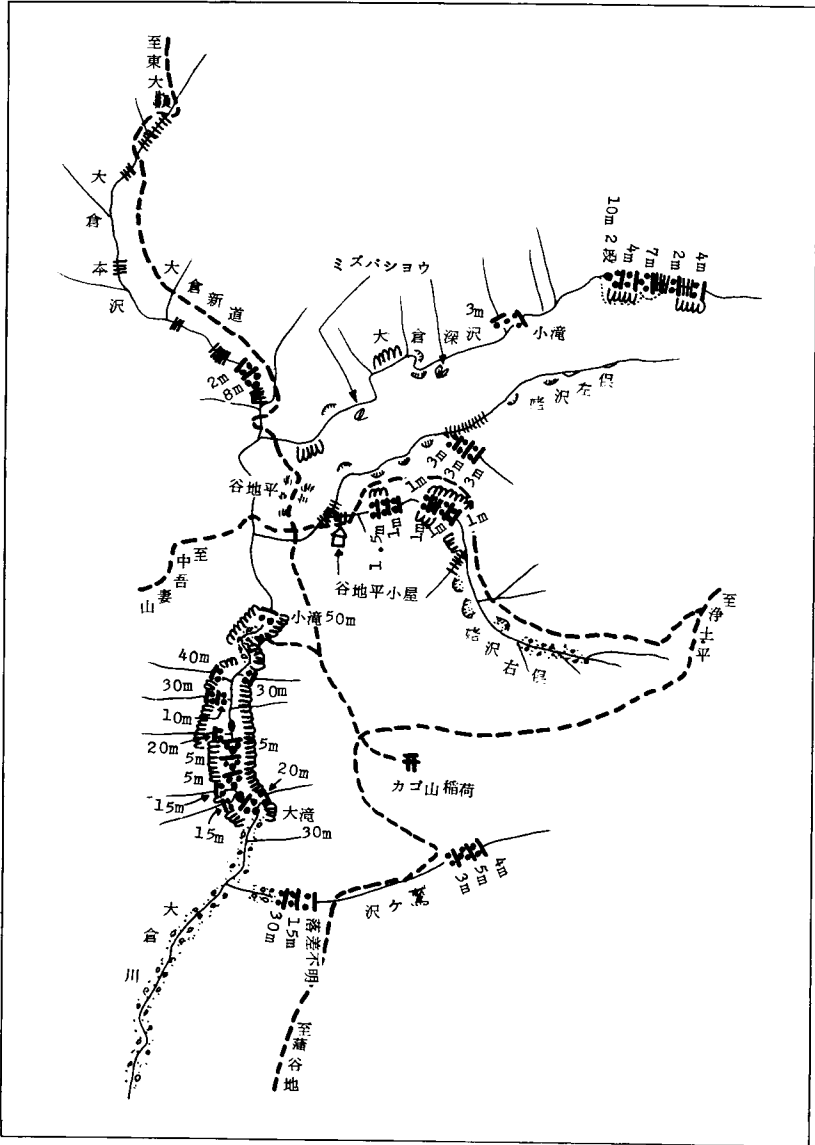
大倉深沢

一九七五年六月二十二日

◆天気(雨)

ミズバショウを見たいという吉野さんの希望で、谷地平および大倉深沢のミズバショウ群落を訪ねて歩くこの山行を企画した。あいにくの雨で全身ズブぬれになったが、例年より開花の遅いミズバショウの花をたっぷり観賞することができた。

九時少し過ぎ、姥ヶ原を通り過ぎる頃から雨となった。チングルマの咲く中を雨にぬれながら谷地平へ急ぐ。登山道の一部にまだ雪が残っていて、今年の雪どけの遅さ



大倉川 (作図: 〇), 大倉本沢 (作図: 〇)
 鷺ヶ沢 (作図: 〇), 大倉深沢 (作図: 〇)
 姥沢 (作図: 半〇) 弘